



《巡検・研修》ふくしま震災遺構フィールドワーク報告

8月21日から22日にかけて、東日本大震災の被災地の一つである福島県を訪れ、震災遺構をめぐるフィールドワークを生徒17名で実施しました。次は、生徒の報告書をもとにした記事になります。

大熊未来塾プログラム

津波でご家族を亡くされた方から直接お話を伺うことができたのは、非常に貴重な経験でした。バスで大熊町を見学し、14年経った今も震災の爪痕が色濃く残っていることを実感しました。復興住宅や新しい施設が建設されている一方で、居住困難地域は当時のままの姿が残っており、そのコントラストに複雑な気持ちがしました。

復興とは単に震災前の姿に戻すことではなく、地域の人々の心の再生を含むものだと感じました。新しい施設を整備するだけでは本当の復興とは言えず、そこに暮らす人々の思いに寄り添うことが必要だと考えました。講師の木村さんから「考え続けることの大切さ」を繰り返し語られ、自分達にも重い責任があると思いました。

ふたば未来学園中高×早稲田大学×国分寺高校

三校合同セッションでは、ふたば未来学園の探究的な学びの姿勢に強い印象を受けました。インプット中心になりがちな高校教育の中で、現地調査や発表を通してアウトプットを重視している点が特徴的でした。生徒の約4割が寮生活を送り、親元を離れて主体的に活動していることにも驚きました。

探究活動では調べるだけでなく、地域課題を自分事として捉え、行動に移している姿が印象的でした。社会起業部の生徒が校内でカフェを運営していたり、トップアスリート部がプロやオリンピックを目指して努力していたりと、多様な挑戦に刺激を受けました。グループセッションでは、異なる背景をもつ生徒と交流し、震災や学校生活について語り合うことができました。今後は早稲田大学とも連携を続けていく予定です。

東日本大震災伝承館・震災遺構請戸小学校

伝承館では、原発災害前後の地域や人々の様子が展示や映像で伝えられていました。清潔で新しい施設である一方、展示内容は深刻で、見ていて胸が締めつけられる思いがしました。歪んだガードレールなどを目の当たりにし、自然の力の恐ろしさを痛感しました。

震災遺構となった請戸小学校は、全員が避難して助かった学校です。校内には当時の避難経路が再現され、壁や配線が損壊したまま展示されていました。津波により教室の面影が失われた光景に言葉を失いました。

見学後は、実際の避難経路をたどって大平山まで歩きました。約1.5kmの道のりを、当時の寒さや恐怖を想像しながら歩くことで、命をつなぐ決断の重さを実感しました。この体験を通じて、震災を風化させず、自分ごととして考え続けることの大切さを改めて学びました。



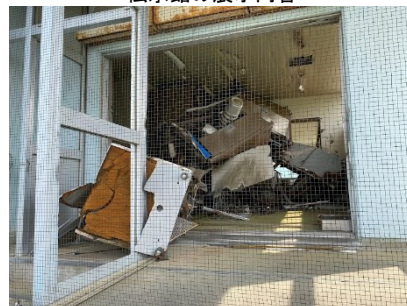
三校合同セッションの集合写真



グループセッションでの生徒交流



伝承館の展示内容



震災遺構となった請戸小学校